

いのちの落語講演

いのちの落語家 樋口 強氏

「生きる希望と勇気を笑顔で伝える」



開催日
平成31年
3/3(日)

市民公開講座

第37回茨城県診療放射線技師学術大会

会場：茨城県立医療大学 大講義室

講演時間：15時～16時（開場14:45分～）

主催：公益社団法人茨城県診療放射線技師会
後援：茨城県・阿見町

入場無料

問合せ先／(公社)茨城県診療放射線技師会 URL:<http://www.iart-web.org/>

Tel:029-243-6747 mail: mailbox@iart-web.org

【市民公開講座】

いのちの落語講演

－生きる希望と勇気を笑顔で伝える



いのちの落語家 樋口強氏

- 企業人として東レ(株)で新規事業立ち上げの最前線にいた1996年、43歳のとき、悪性度が高く生存率が極めて低いと言われている肺小細胞がんに出会う。
- 手術と抗がん剤治療で乗り越えたが、抗がん剤の後遺症である全身の感覚神経麻痺は今でも続いている。日常生活に不自由はあるものの、家庭での毎日のリハビリで「普通のこと」が普通にできる喜び」がいのちを支えてくれている。
- 一年に一度、東京・深川で開催する「いのちの落語独演会(旧称「いのちに感謝の独演会」)は、全国のがんの人と家族を無料で招待し、2016年9月には第16回目を開催した。「笑いは最高の抗がん剤」として、東京・深川江戸資料館の高座にかかる涙と笑いの『いのちの落語』が大きな反響を呼び、毎年たくさんのがんの仲間と家族が全国から駆けつける。
- NHKテレビ「ニュースウォッチ9」・「生活ほっとモーニング」・「こころの時代」、NHKスペシャル「働き盛りのがん」、フジテレビ「バイキング」「アンビリバボー」、テレビ朝日「テレメンタリー」、テレビ東京「生きるを伝える」、読売新聞看板コラム「医療ルネサンス」他多数のメディアがその生き様を取り上げ、全国からたくさんの共感と感動の反響が届く。また2014年には日本経済新聞大型コラム「文化」欄に「がんを越え落語に生きる」を執筆掲載し高い評価を得た。
- 現在は執筆活動と同時に、「笑いは最高の抗がん剤」、「生き方は自分が決める」、「普通のこと」が普通にできる喜び」、「生きてるだけで金メダル」などをテーマに全国で「いのちの落語講演会」を開催している。2007年10月にはイタリア・ミラノで「いのちの落語 in milan」公演を成功させ、その活動は海外にまで広がっている。
- 2011年 市民に感動を与える社会貢献活動により「シチズン・オブ・ザ・イヤー」を受賞した。

◇樋口強 いのちの落語家・作家・「いのちの落語独演会」主宰 1952年生まれ

平成31年3月3日(日) 15時～16時まで
茨城県立医療大学 大講義室